

セッション名	演題番号	演者 ※敬称略	演題名	配信
招請講演 1	IL1	Mi-Na KIM	From microbiology to infection control	○
招請講演 2	IL2	福和 伸夫	能登に学び南海トラフ地震に備える	○
特別講演 1	SL1	岡部 信彦	COVID-19の総括とこれからの感染症対策 ―臨床と検査、地方衛生研究所とのつながりをもっと―	○
特別講演 2	SL2	荒川 宜親	基礎細菌学をベースとした臨床微生物学の展開	○
特別企画 来たれ！第37回日本臨床微生物学会総会・学術集会へ	PP-1	高橋 孝	来たれ！第37回日本臨床微生物学会総会・学術集会へ	○
	PP-2	長野 則之	わくわく学ぼう！ 第 3 7 回日本臨床微生物学会総会・学術集会	○
会長特別企画 パネルディスカッション：血液培養・菌血症診療の適正化を 語ろう	PS-1	河村 佳江	血液培養ボトル供給不足への対応と血液培養検査の現状について	○
	PS-2	笠井 正志	小児領域のジレンマ：多いコンタミ少ない原因菌	○
	PS-3	山本 正樹	適切な血液培養検査について考える（血液培養ボトル供給制限を経験して）	○
副会長特別企画 再び注目される侵襲性溶血性レンサ球菌感染症	VS-1	生方 公子	STSSを含む侵襲性A群溶血性レンサ球菌感染症の患者背景因子と菌の分子疫学	○
	VS-2	花田 豪郎	高齢者に多い侵襲性SDSE感染症の患者背景と菌の分子疫学	○
教育講演 1	EL1	伊東 直哉	固形がん患者の感染症入門	○
教育講演 2	EL2	片岡 浩巳	AIによる臨床検査のイノベーション～微生物検査の未来像を考える～	○
教育講演 3	EL3	宮崎 義継	一歩進んだ深在性真菌症の診断	○
教育講演 4	EL4	山本 剛	微生物検査を目的とした症例提示の考え方	○
教育講演 5	EL5	竹末 芳生	血液培養検査 ～どう運用し、どう採取し、どう解釈するか～	○
教育講演 6	EL6	和知野 純一	臨床検査技師養成大学から「研究者」への道のり	○
教育講演 7	EL7	名木 稔	<i>Candida auris</i> ―その特徴と診断・治療における問題点について―	✖
教育講演 8	EL8	倉井 大輔	成人のRSV感染症	○
教育講演 9	EL9	柳原 克紀	インフルエンザ診断における遺伝子検査の導入 ～その経緯と期待される影響	○
教育講演 10	EL10	松村 康史	NGSの臨床現場における活用－SARS-CoV-2および細菌ゲノム解析の経験と課題	○
教育講演 11	EL11	堀越 裕歩	小児感染症に対する微生物検査の進め方	○
教育講演 12	EL12	高橋 聡	梅毒治療後の検査結果の解釈	○
教育講演 13	EL13	上蓑 義典	微生物検査のオートメーション化：その現状と課題	○
教育講演 14	EL14	三鴨 廣繁	職業感染対策としてのワクチン	○
教育講演 15	EL15	浅川 満彦	「人と動物の共通感染症」の現状と課題－特に野生動物専門医の視点から	○
教育講演 16	EL16	橋本 賢勇	医療統計の基礎知識―解釈の方法とピットフォール―	○
教育講演 17	EL17	森岡 悠	手術部位感染症と微生物	○
Meet the Expert 1	MTE1	下條 誉幸	培地を内側から理解する	○
Meet the Expert 2	MTE2	松元 一明	薬剤師から検査技師へのメッセージ	○
Meet the Expert 3	MTE3	吉川 哲史	ヘルペスウイルス感染症の診断：核酸検査実施時の注意点	○

セッション名	演題番号	演者 ※敬称略	演題名	配信
Meet the Expert 4	MTE4	田中 香お里	これだけは知っておきたい！臨床で重要な嫌気性菌	○
Meet the Expert 5	MTE5	槇村 浩一	美しき真菌の世界	○
Meet the Expert 6	MTE6	長谷川 直樹	抗酸菌感染症診療の最前線	○
Meet the Expert 7	MTE7	春木 宏介	知っておきたいマラリアの診断と治療	○
Meet the Expert 8	MTE8	宮崎 泰可	慢性肺アスペルギルス症の診断と治療の考え方	○
Meet the Expert 9	MTE9	横幕 能行	HIV感染症診療の現在とこれから	○
Meet the Expert 10	MTE10	國島 広之	CDI診療/感染対策の最先端	○
Meet the Expert 11	MTE11	大楠 清文	CLSI/検査の最新情報	○
Meet the Expert 12	MTE12	土井 洋平	多剤耐性グラム陰性桿菌感染症の治療	○
Meet the Expert 13	MTE13	永田 邦昭	グラム染色を極める～染色を用いた診療支援の可能性～	○
Meet the Expert 14	MTE14	松本 竹久	臨床微生物検査で問題となるSmall-colony variants	○
Meet the Expert 15	MTE15	鈴木 匡弘	POT法今昔物語	○
Meet the Expert 16	MTE16	矢口 貴志	ノカルジアを深堀する	○
Meet the Expert 17	MTE17	菊池 賢	群溶連菌感染症の診断と治療急増する劇症型溶血性レンサ球菌感染症について	○
シンポジウム 1 血流感染症・呼吸器感染症における 多項目遺伝子検査の活用	SY1-1	鈴木 広道	血流感染症における医師の視点からの多項目遺伝子検査の有用性と課題	○
	SY1-2	岩崎 澄央	臨床検査技師の視点からの多項目遺伝子検査の有用性と課題	○
	SY1-3	賀来 敬仁	呼吸器感染症における多項目遺伝子検査の有用性と課題	○
	SY1-4	山田 康一	黄色ブドウ球菌菌血症におけるGeneXpertの抗菌薬適正使用支援での活用と有効性	○
シンポジウム 2 微生物検査室における核酸検査の活用	SY2-1	川畑 大輔	全自動核酸迅速検査の活用	○
	SY2-2	相原 正宗	呼吸器感染症における多項目核酸検査の有用性と注意点	○
	SY2-3	前島 誠	血流感染症における多項目核酸検査の有用性と注意点	○
	SY2-4	村田 美香	微生物検査における次世代シーケンサーの活用	○
シンポジウム 3 ASTに役立つ「生化学検査」	SY3-1	宮崎 泰可	真菌関連マーカーの使いどころとピットフォール	○
	SY3-2	関谷 紀貴	ASTに役立つ「生化学検査」：炎症反応マーカー	○
	SY3-3	森岡 悠	ASTに役立つウイルス検査	○
	SY3-4	武藤 義和	ASTに役立つ「生化学検査」 抗酸菌検査(抗MAC抗体、IGRA)～疑わなければ見つけられない、抗酸菌診断の頼りになるヤツ～	○
シンポジウム 4 ワクチンで防げる病気	SY4-1	丸山 貴也	肺炎球菌	○
	SY4-2	手塚 宜行	インフルエンザ菌：Hibワクチンの貢献と今後の課題	○
	SY4-3	海老澤 馨	破傷風菌	○
	SY4-4	鈴木 道雄	百日咳	○
	SY4-5	福住 宗久	国内の侵襲性髄膜炎菌感染症の疫学	○

セッション名	演題番号	演者 ※敬称略	演題名	配信
シンポジウム 5 CREの検査の在り方	SY5-1	坂梨 大輔	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌検査法の現状	○
	SY5-2	小佐井 康介	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌の新しい検査法とその活用	○
	SY5-3	山本 正樹	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌の地域サーベイランスとその課題	○
	SY5-4	早川 佳代子	検査に基づくカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の治療戦略	○
シンポジウム 6 嫌気性菌検査の考え方	SY6-1	大柳 忠智	嫌気性菌同定の現状と限界	○
	SY6-2	米谷 正太	嫌気性菌の薬剤感受性検査の現状と限界 ーできることを考えるー	○
	SY6-3	村上 忍	嫌気性菌検査の考え方嫌気性菌感染症どこまで結果報告すべき？	○
	SY6-4	細川 直登	嫌気性菌感染症 検査結果はここまで欲しい！	○
シンポジウム 7 抗酸菌感染症診療の最前線	SY7-1	御手洗 聡	抗酸菌検査の最新の動向	○
	SY7-2	松本 智成	結核疫学の動向と診療の課題	○
	SY7-3	中川 拓	MACの動向	○
	SY7-4	森本 耕三	肺 <i>M. abscessus</i> speceis症の治療	○
シンポジウム 8 性感染症（STI）診療における診断・検査の潮流	SY8-1	三鴨 廣繁	梅毒診療における診断・検査の潮流	○
	SY8-2	安田 満	淋菌感染症における診断・検査	○
	SY8-3	高橋 聡	性器クラミジア感染症診療における診断・検査の潮流	○
	SY8-4	濱砂 良一	性感染症（STI）診療における診断・検査の潮流ーMycoplasma 属・Ureaplasma 属	○
シンポジウム 9 神経系感染症を極める	SY9-1	椎木 創一	髄膜炎	○
	SY9-2	仲村 究	脳膿瘍	○
	SY9-3	鳥居 ゆか	ウイルス性脳炎	○
	SY9-4	上原 由紀	脳神経外科術後の感染症	○
シンポジウム 10 深在性真菌症の診断と治療のアップデート	SY10-1	渡邊 哲	培養・同定の重要性	○
	SY10-2	荒岡 秀樹	深在性真菌症の診断と治療のアップデート：遺伝子診断	○
	SY10-3	吉田 耕一郎	血清診断アップデート	○
	SY10-4	宮崎 泰可	薬剤感受性検査と抗真菌薬選択のポイント	○
シンポジウム 11 アウトブレイク時の分子疫学的解析	SY11-1	山口 哲央	黄色ブドウ球菌の分子疫学的解析	○
	SY11-2	原田 壮平	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌の分子疫学的解析	○
	SY11-3	加藤 はる	<i>Clostridioides difficile</i> の分子疫学解析とサーベイランス	○
	SY11-4	宮崎 博章	VREの分子疫学的解析	○

セッション名	演題番号	演者 ※敬称略	演題名	配信
シンポジウム 12 J-SIPHEとOASCISの病院と地域での活用方法	SY12-1	田島 太一	J-SIPHEの現状と今後の展望	○
	SY12-2	石岡 春彦	J-SIPHEとアンチバイオグラム	○
	SY12-3	田辺 正樹	J-SIPHEの地域での活用例	○
	SY12-4	松永 展明	診療所版J-SIPHE（OASCIS）の病院での活用について	○
シンポジウム 13 次世代シーケンサー（NGS）基礎の基礎	SY13-1	堀場 千尋	感染症学分野におけるNGSの基礎的知識	○
	SY13-2	嵯峨 知生	NGSの活用方法：現状での活用場面	○
	SY13-3	青木 弘太郎	全ゲノム解析（WGS）がもたらす臨床微生物学の未来	○
シンポジウム 14 これからのLaboratory Developed Testの 活用と発展、問題点	SY14-1	上蓑 義典	臨床微生物検査におけるLDTの貢献可能性	○
	SY14-2	松村 康史	これまでのLDTの経験と課題	○
	SY14-3	金城 武士	呼吸器感染症におけるLDTの活用	○
	SY14-4	青木 弘太郎	LDTに必要とされる精度管理の特徴	○
シンポジウム 15 Diagnostic Stewardship：DSの実践をするために	SY15-1	舟橋 恵二	DSの実践：検査前プロセス	○
	SY15-2	宮本 仁志	DSの実践：検査プロセス	○
	SY15-3	久田 恭子	DSの実践：検査後プロセス	○
	SY15-4	笠原 敬	DSの実践：Diagnostic Excellence（DxEx）とは	○
シンポジウム 16 コロナ禍で普及した遺伝子検査装置の活用	SY16-1	馬場 尚志	感染管理における活用	○
	SY16-2	木部 泰志	感染症診断における遺伝子検査装置の活用	○
	SY16-3	中浜 力	診療所における遺伝子検査の活用	○
シンポジウム 17 ICT、ASTで活きる、各職種の強みを学ぶ	SY17-1	豊留 有香	多職種で取り組むラウンドをより効果的にするために必要なことを考える	○
	SY17-2	浜田 幸宏	薬剤師が伝授！菌と抗菌薬の関係だけじゃない、抗菌薬適正使用について	○
	SY17-3	小泉 祐介	感染症医が伝授！感染症 画像診断のポイント	○
	SY17-4	米谷 正太	臨床検査技師が答える！他職種に知ってほしい、微生物検査のポイントと各職種からの質問の答え	○
シンポジウム 18 環境から分離される薬剤耐性菌の特徴と傾向	SY18-1	中村 竜也	河川環境から検出される薬剤耐性菌	○
	SY18-2	中野 竜一	動物環境から検出される薬剤耐性菌	○
	SY18-3	齋藤 良一	病院排水から検出される薬剤耐性菌	○
	SY18-4	中村 造	水道・シンクから検出される薬剤耐性菌	○
シンポジウム 19 イムノクロマト法による迅速診断キット	SY19-1	西山 宏幸	基本原理と諸注意－イムノクロマト法・核酸増幅法	○
	SY19-2	川端 直樹	カンピロバクター抗原検出キットを用いた迅速診断	○
	SY19-3	保科 斉生	赤痢アメーバ抗原検出キットについて	○
	SY19-4	渡辺 大輔	皮膚ヘルペスウイルス(HSV, VZV) 抗原検出キット	○
	SY19-5	山岸 由佳	淋菌	○

セッション名	演題番号	演者 ※敬称略	演題名	配信
パネルディスカッション 1 血液培養陽性ボトルからの迅速薬剤感受性検査結果報告	PD1-1	上地 あゆみ	EUCAST RASTを用いた血液培養陽性ボトルからの迅速薬剤感受性検査	○
	PD1-2	宮城 ちひろ	那覇市立病院における血液培養陽性ボトルからの迅速薬剤感受性検査	○
	PD1-3	吉田 勝一	全自動同定感受性検査システムを用いた血液培養陽性ボトルからの迅速薬剤感受性検査	○
	PD1-4	馬場 康次	VITEK2を用いた血液培養陽性ボトルからの迅速薬剤感受性検査	○
パネルディスカッション 2 血液培養陽性！その後、どうする？	PD2-1	長南 正佳	Gram染色を活かしたフローの成功とピットフォール	○
	PD2-2	大友 志伸	MALDI-TOF MSを活かしたフロー	○
	PD2-3	加地 大樹	血液培養陽性！その後、どうする？ー遺伝子検査編ー	○
	PD2-4	岡本 耕	血培陽性！連絡を受ける医師の立場から	○
パネルディスカッション 3 微生物検査の依頼画面を考える (適正な微生物検査を行うために)	PD3-1	山本 剛	微生物検査のオーダリングシステムのメリット・デメリットについて～微生物検査技師の観点から～	○
	PD3-2	上蓑 義典	臨床微生物検査の依頼について～医師の観点から～	○
	PD3-3	矢口 勇治	臨床微生物検査の依頼について ～外注検査の現状と課題～	○
パネルディスカッション 4 微生物検査システムの「超」活用術	PD4-1	静野 健一	システムを活用した検査業務の効率化＆安全性向上 Part-1	○
	PD4-2	阿部 教行	システムを活用した診療支援＆検査業務の効率化 Part-2	○
	PD4-3	園部 一成	システムを活用した臨床に貢献する結果報告法	○
	PD4-4	大石 貴幸	感染管理における疫学的データの活用とその効果	○
パネルディスカッション 5 アウトブレイク発生！ 臨床検査技師に求められるスキルとは	PD5-1	安藤 隆	微生物検査技師に求められる感染制御の知識とは	○
	PD5-2	松井 奈津子	アウトブレイク対応で求められる知識と行動～MDRAアウトブレイク経験から～	○
	PD5-3	仁木 誠	アウトブレイク対応における分子疫学解析～基礎と活用法～	○
	PD5-4	伊藤 健太	小児専門医療施設で起きた給茶機を介したカルバペネマーゼ産生腸内細菌アウトブレイク	○
パネルディスカッション 6 名探偵マイクロバイオLOG	症例提示/ 解説	佐々木 雅一		○
	回答者	大瀧 博文		○
		米谷 正太		○
		寺本 侑弘		○
		原 稔典		○
パネルディスカッション 7 質量分析装置に頼らない“まれ菌”同定スキルアップ講座	PD7-1	川畑 大輔	"まれ菌"同定～グラム陽性球菌～	○
	PD7-2	中村 文子	“まれ菌”同定～グラム陽性桿菌～	○
	PD7-3	園部 一成	“まれ菌”同定～グラム陰性球菌～	○
	PD7-4	富樫 真弓	“まれ菌”同定 グラム陰性桿菌	○

セッション名	演題番号	演者 ※敬称略	演題名	配信
パネルディスカッション 8 微生物検査技師による総合報告コメント作成の工夫	PD8-1	大友 志伸	呼吸器感染症における報告コメント	×
	PD8-2	茜谷 大輔	皮膚軟部組織感染症に関する報告コメント	×
	PD8-3	口広 智一	尿路感染症に関する報告コメント	×
	PD8-4	渋谷 寧	微生物検査に関する有用なコメント（医師の立場から）	×
パネルディスカッション 9 MALDI-TOF MSの光と影	PD9-1	河内 誠	MALDI-TOF MSの光と影 –MALDI-TOF MS導入のハードルと攻略法–	○
	PD9-2	平井 潤	MALDI-TOF MS の光と影 MALDI-TOF MSがASTにもたらずインバクト	○
	PD9-3	松山 由美子	MALDI-TOF MSの微生物検査へのチャレンジー分類同定ー	○
	PD9-4	染谷 友紀	MALDI-TOF MSの限界	○
	PD9-5	小佐井 康介	MALDI-TOF MSの未来ー薬剤耐性菌の検出や疫学への活用ー	○
パネルディスカッション 10 “職人技” と “標準化” ～究極の“ハイブリッド”	PD10-1	大城 健哉	血液培養検査における職人技と標準化	○
	PD10-2	静野 健一	培養・同定検査における職人技と標準化	○
	PD10-3	口広 智一	薬剤感受性検査における職人技と標準化	○
	PD10-4	山本 剛	グラム染色における職人技と標準化	○
パネルディスカッション 11 微生物検査の標準化ーいつでも、どこでも同じ品質ー	PD11-1	今井 芙美	呼吸器感染症の検査	○
	PD11-2	黒川 正美	尿路感染症における微生物検査の標準化	○
	PD11-3	原 祐樹	微生物検査の標準化ーいつでも、どこでも同じ品質ー 腸管感染症の検査	○
	PD11-4	仲田 佑未	軟部組織感染症の検査	○
パネルディスカッション 12 微生物検査における女性のキャリア形成	PD12-1	於保 恵	管理職の立場から見た女性活躍とキャリア形成	○
	PD12-2	星 紫織	なぜ私は認定取得を目指したかー出産を期に訪れた気持ちの変化ー	○
	PD12-3	千葉 美紀子	ライフサイクルと仕事へのモチベーション	○
	PD12-4	西尾 美津留	育児と微生物検査の両立～これからライフサイクルの変化を迎える方々へ～	○
パネルディスカッション 13 ComplexがKomplexになっている微生物検査の問題解決法	PD13-1	森本 耕三	<i>Mycobacterium abscessus</i> complexというコンプレックスのスパイラル	○
	PD13-2	上地 幸平	アシネトバクター属菌	○
	PD13-3	渡 智久	<i>Enterobacter cloacae</i> complex	○
	PD13-4	北川 大輔	<i>Aeromonas</i> 属菌	○
パネルディスカッション 14 臨床微生物検査におけるイレギュラー、解決への糸口を探る	PD14-1	大瀧 博文	同定検査におけるイレギュラー対応、微生物検査技師としてできること	○
	PD14-2	鈴木 裕	感受性検査におけるイレギュラー対応～臨床検査技師としてできること～	○
	PD14-3	杉浦 康行	臨床微生物検査におけるイレギュラー、解決への糸口を探るー遺伝子検査におけるイレギュラー対応、微生物検査技師としてできることー	○
	PD14-4	井口 光孝	臨床医にとっての微生物検査イレギュラー報告ー微生物検査技師に求めることー	○

セッション名	演題番号	演者 ※敬称略	演題名	配信
パネルディスカッション 15 新時代への適応に必要なβ-ラクタマーゼの知見と検査	PD15-1	大瀧 博文	染色体性β-ラクタマーゼ産生菌	○
	PD15-2	原 稔典	ESBL、プラスミド性AmpC β-ラクタマーゼ産生菌	○
	PD15-3	岡 圭輔	プラスミド性カルバペネマーゼ産生菌	○
	PD15-4	西村 翔	βラクタマーゼ産生菌検査の臨床的意義と治療	○
パネルディスカッション 16 心血管感染症の臨床と求められる微生物検査	PD16-1	栃谷 健太郎	感染性心内膜炎：診療の実際	○
	PD16-2	菊池 賢	心血管植込み型電子デバイス感染症（CIED感染症）	○
	PD16-3	細川 直登	感染性動脈瘤と人工血管感染症：診療の実際	○
	PD16-4	渡辺 直樹	心血管感染症：微生物検査と今後の展望	○
パネルディスカッション 17 検出が困難な薬剤耐性菌をどのように捉えるか！	PD17-1	仁木 誠	mecC 型MRSA	○
	PD17-2	宮崎 博章	ステルス型VRE	○
	PD17-3	長野 則之	OXA型カルバペネマーゼ	○
	PD17-4	安楽 正輝	カルバペネム系薬を分解するAmpC型 β-ラクタマーゼ	○
パネルディスカッション 18 微生物検査室のSDG s	PD18-1	西尾 美津留	微生物検査における働き方改革～限りあるリソースで持続可能な微生物検査を目指すために～	○
	PD18-2	加藤 純	秋田県の微生物検査におけるSDGsの取り組みと未来への展望	○
	PD18-3	延廣 奈々子	Z世代の取り扱い説明書 ―Z世代が大事にするフィードバックと認識―	○
	PD18-4	星 紫織	オンラインとSNS時代の学びかた	○
パネルディスカッション 19 時代に適応できる臨床微生物検査の人材育成	PD19-1	玉井 清子	「時代に適応できる臨床微生物検査の人材育成」―検査センターの立場から	○
	PD19-2	河内 誠	時代に適応できる臨床微生物検査の人材育成 ―江南厚生病院の人材育成―	○
	PD19-3	大城 健哉	那覇市立病院における人材育成	○
	PD19-4	清祐 麻紀子	“時代に適応できる”九州大学病院における人材育成への取り組み	○
パネルディスカッション 20 群像～病院外で活躍している微生物検査技師たち～	PD20-1	小松 方	病院、検査センターおよび大学教育のキャリアから経験したこと	○
	PD20-2	齋藤 良一	研究教育者という生き方	○
	PD20-3	上地 幸平	厚生労働省で働く臨床検査技師	✖
	PD20-4	星 紫織	臨床検査センターで働くということ	○
医師を感激させた微生物検査 ver.10	症例1	丹羽 麻由美	感染症診療と感染対策のカギを握る便～今こそ試される臨床検査技師の技量～	○
		手塚 直行		○
	症例2	大沼 健一郎	年末年始を騒がせた脳膿瘍	○
		小山 峻		○

セッション名	演題番号	演者 ※敬称略	演題名	配信
忘れられない〇〇	UF-1	長岡 里枝	私の忘れられない症例～沈黙の血培陽性ボトル～	○
	UF-2	永田 恵一	医師との連携が菌種同定に至った忘れられない症例	○
	UF-3	村上 忍	忘れられないパラサイト達	○
	UF-4	福島 一彰	忘れられない世界一例目の報告	○
	UF-5	林 俊誠	一度聞けば「忘れられない」渡航者の発熱症例	○
認定臨床微生物検査技師制度協議会 新しい時代が求める認定臨床微生物検査技師のあるべき姿	QSC-1	熊坂 一成	イントロダクション 何故、今、新しい時代が求める認定臨床微生物検査技師のあるべき姿が必要なのか	○
	QSC-2	加藤 維斗	ワークショップに参加して	○
	QSC-3	安藤 隆	新しい時代の認定臨床微生物検査技師に求められること（グループ1）	○
	QSC-4	中村 彰宏	新しい時代の認定臨床微生物検査技師に求められること（グループ2）	○
	QSC-5	三澤 成毅	「新しい認定臨床微生物検査技師像の提案」（あり方委員会承認案）と今後の予定	○
ワークショップ 1 便検査再考	WS1-1	大藏 照子	薬剤耐性菌スクリーニング検査の現状と課題	○
	WS1-2	磯崎 将博	下痢原性大腸菌検査 どこまで実施すべきか？	○
	WS1-3	木部 泰志	ガイドライン改訂に伴うCDI検査の再考	○
	WS1-4	大楠 清文	消化管感染症の遺伝子検査	○
ワークショップ 2 ～培養の必要性は？	WS2-1	杉本 諒司	喀痰培養検査でのこれ要る？ 要らない？	○
	WS2-2	千葉 美紀子	創部培養検査の必要性和効果的な実施方法	○
	WS2-3	市原 浩司	尿路感染症における培養検査の必要性	○
	WS2-4	青木 洋介	血液培養の必要性和結果解釈についての論考	○
ワークショップ 3 稀な輸入感染症の診療～医師と 検査技師の連携	WS3-1	中村（内山） ふくみ	ヒストプラズマ症を疑ったら	○
	WS3-2	篠原 浩	ハンセン病を疑ったら	○
	WS3-3	仲松 正司	顧みられない熱帯病（NTD）糞線虫について	○
	WS3-4	岩井 克成	狂犬病を疑ったら	○
日韓合同シンポジウム Artificial intelligence and clinical microbiology diagnostics	JKS1-1	Min Hyuk Choi	Enhancing Interpretation with Artificial Intelligence for Clinical Microbiology Diagnostics	○
	JKS1-2	Yoshifumi Uwamino	Academic society response to AI movement in Japan	○
	JKS1-3	Chang Ki Kim	Application of AI/ML in Clinical Microbiology Laboratories	○
	JKS1-4	Go Yamamoto	The Application of Artificial Intelligence in Microbiological Examinations: Integration with Gram Staining for Innovation	○
日韓合同微生物検査シンポジウム 薬剤感受性検査の現状と課題 Current Status of Antimicrobial Susceptibility Testing in Korea	JKS2-1	上地 幸平	日本における薬剤感受性検査・耐性菌検査の現状と課題	○
	JKS2-2	Yun Jung Hee	Current Status of Antimicrobial Susceptibility Testing in Korea	○

セッション名	演題番号	演者 ※敬称略	演題名	配信
日本医真菌学会共同シンポジウム 真菌感染症の検査／遺伝子・抗原、MALDI-TOF MS、薬 剤感受性	JMP-1	渡邊 哲	真菌感染症における遺伝子・抗原抗体検査について	○
	JMP-2	村田 正太 山下 晃司	真菌同定におけるMALDI-TOF MSの効果	○
	JMP-3	梅山 隆	真菌の薬剤感受性試験：現状と展望	○
2024年度認定臨床微生物検査技師（CMTCM）・感染 制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）合同講習会 病原体等安全取扱・管理指針2023年改訂版より学ぶ 安全管理	ICTM-1	河村 好章		○
	ICTM-2	三澤 成毅	報告：CMTCM・ICMTの登録状況	○
ポストコロナ検査機器活用委員会 委員会報告	PCC-1	松村 康史	病原体核酸検査の標的となる感染症の臨床像と疫学	○
	PCC-2	口広 智一	Diagnostics stewardshipへの活かし方	○
	PCC-3	磯崎 将博	感染対策への活かし方	○
	PCC-4	鈴木 広道	臨床医が考える活かし方	○
認定医制度委員会 臨床微生物検査におけるDSの推進	BC-1	笠原 敬	日本臨床微生物学会認定医制度について	○
	BC-2	林 俊誠	DSにおけるグラム染色検査の活用	○
	BC-3	大楠 清文	DSに役立つCLSIの最新トピックス	○
国際委員会 2023年度 海外留学報告	IN-1	北川 大輔	2023年度 海外留学報告～Clinical microbiology laboratory at MedStar Washington Hospital Center～	○
	IN-2	川元 康嗣	アメリカの臨床微生物検査室の現場を経験して	○
編集委員会 論文の書き方講座	HH-1	齋藤 良一	論文の書き方	○
	HH-2	森 伸晃	初めての論文投稿を成功させる：査読者の視点と実践的アドバイス	○
標準化検討委員会 尿の微生物学的検査の標準化プロトコル作成までの課題	CO-1	清祐 麻紀子	これまでの経緯と本年度の活動について	○
	CO-2	上原 由紀	実例で示す、尿路感染症検査に関する“検査前プロセス”の課題	○
	CO-3	宮本 仁志	実例で示す、尿路感染症検査に関する“検査、検査後プロセス”の課 題	○
	CO-4	静野 健一	標準化へ向けた尿培養検査検討報告	○
ISO委員会 微生物関連の文書の現状	ISO	荒岡 秀樹	微生物関連の文書の現状	○
四学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会 委員会報告 （日本化学療法学会・日本感染症学会・日本臨床微生物 学会・日本環境感染学会）	4 CSR-1	時松 一成	第14回三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス－呼吸器感染症－	○
	4 CSR-2	繁本 憲文	四学会合同抗菌薬感受性サーベイランス－手術部位感染症－	○
第468回 ICD講習会 わが国における感染症対策および薬剤耐性菌の動向と課題	ICD-1	大曲 貴夫	グローバル化に伴う感染症の課題とその対策	✖
	ICD-2	田辺 正樹	わが国における感染症対策の基盤と課題およびわが国の薬剤耐性菌 の動向と課題	✖
	ICD-3	菅井 基行	わが国の医療機関における薬剤耐性菌の動向とその課題	✖
	ICD-4	浅井 鉄夫	動物における薬剤耐性菌の動向とその課題	✖
ランチョンセミナー	すべてのセッション			✖
スイーツセミナー	すべてのセッション			✖
スポンサードセミナー	すべてのセッション			✖
共催パネルディスカッション	すべてのセッション			✖